

古代ペルシア

◎今回の抑えておきたい大まかなポイント

- 1.ペルシアとは現在のイラン地域を指す！
- 2.この地域は
メディア→アケメネス朝ペルシア→**セレウコス朝**
シリア→**パルティア**→**ササン朝ペルシア**
と変国していった。
- 3.ササン朝ペルシアの宗教は**ゾロアスター教**であり、この国はアラブ人によって滅んだ。



アンティゴノス朝マケドニア



図:ヘレニズム時代の3王国

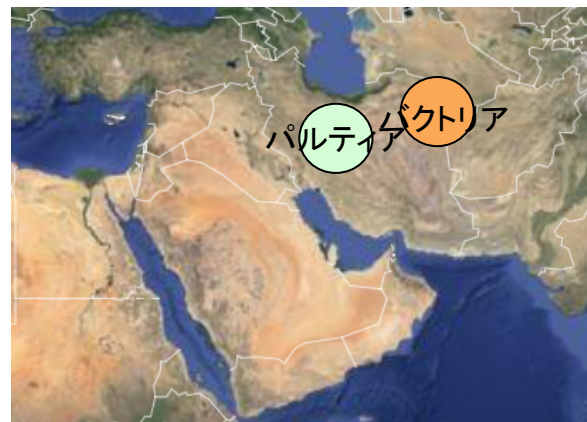


図:パルティア領域



図:ササン朝ペルシア

◎アケメネス朝ペルシア時代の終わり

前334年、マケドニアのアレクサンドロス大王は東方遠征に出発し、エジプトを征服し、前330年にアケメネス朝ペルシアを滅ぼした。

◎ヘレニズム時代(前334年～前30年)の突入

アレクサンドロス大王の死後、その領土はやがて(1) _____、(2) _____、(3) _____ などの諸国に分裂した。またアレクサンドロス大王の東方遠征から、もっとも長く存在したプトレマイオス朝エジプトの滅亡までの約300年を、(4) _____ とよぶ。

◎パルティア、バクトリアの建国

前3世紀半ばに、アム川上流のギリシャ人が独立し(5) _____ が建国され、遊牧イラン人の族長アルサケスもカスピ海南部に(6) _____ を建国した。パルティアは前2世紀半ばにメソポタミアを併合後(7) _____ に都を定め、東西貿易の利益を独占して栄えていった。

◎ササン朝ペルシアの登場

パルティアはローマとの戦いが多発し、国力が衰え、最終的には226年に(8) _____ によって滅ぼされた。ササン朝ペルシアは(9) _____ によって建国され、ゾロアスター教を国教に定めて国の統一をはかった。第2代皇帝の(10) _____ のときには全盛期を迎えた。

5世紀後半には中央アジアの遊牧民(11) _____ の侵入を受けるが、(12) _____ の時代に突厥と同盟を結び、エフタルを滅ぼした。しかし、642年に(13) _____ でイスラーム軍(正統カリフ時代のアラブ人)にて敗れ、651年に滅亡した。



図:マケドニアの場所



図:アム川の場所

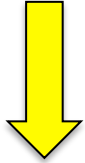


図:紀元前50年頃のパルティアの勢力図

◎ササン朝ペルシアの宗教

国教:ゾロアスター教

経典:アヴェスター



3世紀の宗教家マニは、ゾロアスター教や仏教、キリスト教を融合しマニ教をおこした。



しかし！！

マニ教は国内で弾圧された。

公務員試験の選択肢例

西アジアの歴史に関する記述として最も妥当なものはどれか。

- 1.ティグリス・ユーフラテス両河の流域メソポタミアは、紀元前3000年頃に鉄器を用いて侵入したバビロン第1王朝のハンムラビ王によって統一された。ハンムラビ王の下ではハンムラビ法典の編纂をはじめ、60進法や太陰暦が発明されるなど現実的な文明が栄えた。
- 2.紀元前6世紀頃、ペルシア人の国家であるアケメネス朝が強大となり、ダリウス1世の下でアラビア半島を中心とした大帝国が建設された。アケメネス朝ペルシアはペルシア戦争でギリシャに大勝しこれを支配下においたが、紀元前4世紀には地中海を中心に急速に勢力を伸ばしたローマ帝国によって滅ぼされた。
- 3.ゾロアスター教を国教としたササン朝は、一時、遊牧民族の侵入を受けたものの6世紀にはホスロー1世の下で税制・軍制の改革を行うなどして支配体制を再建し、最盛期を迎えた。しかし、王の死後、次第に衰えていき7世紀半ばにはアラブ人に滅ぼされた。

センター試験 改題

パルティアの歴史について述べた文として誤っているのはどれか。

- 1.クテシフォンを都とした。
- 2.中国では安息と呼ばれた。
- 3.ダレイオス1世のとき、最盛期を迎えた。
- 4.ササン朝に滅ぼされた。